



1930年代、反ユダヤの暴力が東ヨーロッパに野火のように広がった。とくにルーマニアがひどく、地図10に示す都市でユダヤ人襲撃が頻発した。ルーマニアの大学では、反ユダヤのファッショ組織として勢力のある鉄衛団が、ユダヤ人学生の授業参加を妨害した。1934年からは、ユダヤ人弁護士は法律関係の仕事につけなくなった。1936年、鉄衛団がティミショアラのユダヤ人劇場で爆弾事件を起こし、ユダヤ人2人が死亡、多数が負傷した。

1936年11月、ユーゴスラヴィアのベトログラディンで、ナチのデル・シュトルマーをモデルにした反ユダヤ紙の編集長が裁判にかけられたが、結局無罪放免となった。1937年8月、チェコスロヴァキアのフメネーで、ユダヤ人達が神を冒とくしたとして乱暴される事件が起きた。

リトアニアでは(地図11)、ユダヤ人学生の大学入学者数が厳しく制限された。例えば、1936年の大学入学では、医学部へは1人も認められなかった。

30年代後半になると、ドイツ以外の国でも、反ユダヤ法が身分法にみられるようになった。1938年1月21日、ルーマニアは、ユダヤ人に認められていた少数派集団の権利を正式に破棄し、第一次世界大戦以来同国に居住してきたユダヤ人の多くから市民権を剥奪した。

1938年5月29日、ハンガリー政府は反ユダヤ法の第一弾である職業制限法を導入し、自由業、行政職、商業および工業に占めるユダヤ人の割合を20%に制限した。1939年5月3日、今度は、ユダヤ人は裁判官、弁護士、教師、国会議員になれないとする“ユダヤ法”が導入された。

このような法律は反ユダヤ主義を誘発し、各地で暴力沙汰が発生した。例えば1939年2月3日には、ブダペストの或るシナゴグで爆弾事件があり、礼拝者1名が死亡、多数の負傷者をだしている。

しかし、1935年から37年にかけて反ユダヤ暴動が一番荒れ狂ったのは、ポーランドだった。地図12に示す各町村で、路上襲撃、住宅放火、店舗破壊と略奪など、ユダヤ人を対象にした事件が発生した。1936年にはイエズス会の機関誌が、「我方の子弟がユダヤの低劣な倫理観に汚染されないように、ユダヤ人学校を別に設ける必要がある」と主張した。1936年2月29日、フロンド枢機卿が声明をだした。「ユダヤ人達が詐欺行為を働き、高利貸を仕事とし、白人売春婦の売買をもつばらにしているのは事実である。学校でユダヤ人子弟がカトリック教徒の子弟に悪影響を及ぼしているのも事実である。しかし、よく考えてみようではないか。ユダヤ人がすべてそうであるというわけではない。商取引を誰とやるか、ユダヤ人の店あるいは市場のユダヤ人売店を避けるとい

ったことは、個人の勝手だが、ユダヤ人の商店を襲ったり、住宅を破壊したりするのは、許さるべき行為ではない」とする内容である。

1936年3月9日、プシティクの村でユダヤ人が3人惨殺された(地図12)。この事件で、ポーランドのユダヤ人300万人は恐怖のドン底へ突き落とされた。追いつちをかけるように、数日後スタヴィという村で5人のユダヤ人が

殺された。ユダヤ人の自衛行動がありはしたが(地図中の*)、結局79人が殺害され、500人が負傷した。

1937年はさらに被害が大きかった。8月だけで350件の襲撃事件が起きた。カトヴィツェでは、ユダヤ人店舗を狙った爆弾事件があいだ。数千数万人のユダヤ人がポーランドへ突き落とされた。彼等はフランス、ベルギー、オランダ、パレスチナへ移住していった。

ホロコースト歴史地図

1918-1948

マーチン・ギルバート 滝川義人[訳]

ATLAS OF THE HOLOCAUST

